

実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名（地区内集落名）	作成年月日	直近の更新年月日
吉崎市	柳田地区 （物部本村触・田中触・柳田触・木田触・半城 本村触・牛方触・大浦触）	R4.1.14	

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	214.04 h a
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	146.21 h a
③地区内における70才以上の農業者の耕作面積の合計	103.47 h a
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	15.78 h a
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	1.43 h a
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	25.74 h a
(備考)	

2 対象地区の課題

柳田地区は、集落営農法人2法人（農事組合法人 きだ・農事組合法人 大浦）が活動している。認定農業者は肉用牛主体の経営が多く、法人化した経営体も存在する。

また、農地中間管理機構関連基盤整備事業により木田触において、圃場整備が行われている。

今後中心経営体が引き受けざる意向のある耕作面積よりも、後継者が不在となり出し手となる農地が多くなる可能性もあるため、法人化した経営体を中心に農地の効率的利用を推進していく必要がある。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

物部本村触の農地利用は、中心経営体である認定農業者等が担うほか、入作を希望する認定農業者や認定新規就農者の受入を促進することにより対応していく。

田中触の農地利用は、中心経営体である認定農業者等が担うほか、入作を希望する認定農業者や認定新規就農者の受入を促進することにより対応していく。

柳田触の農地利用は、中心経営体である認定農業者等が担うほか、入作を希望する認定農業者や認定新規就農者の受入を促進することにより対応していく。

木田触の農地利用は、集落営農法人の（農）きだを中心に認定農業者等が担うほか、入作を希望する認定農業者や認定新規就農者の受入れを促進することにより対応していく。

※農地中間管理機構関連基盤整備事業実施予定のため、農地利用については調整済。

半城本村触の農地利用は、中心経営体である認定農業者等が担うほか、入作を希望する認定農業者や認定新規就農者の受入れを促進することにより対応していく。

4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針（任意記載事項）

農地の貸付け等の意向 貸付け等の意向が確認された農地は、88筆 67,819㎡となっている。
共同化に向けた取り組み 木田地区・大浦地区では集落営農による共同作業、機械の共同利用が行われている。
農地中間管理機構の活用方針 木田地区・大浦地区を重点実施地区とし、将来の経営農地の集約化を目指し、農地所有者は、出し手・受け手にかかわらず、原則として、農地を機構に貸し付けていく。
後継者・新規参入者確保に向けた取組方針 農業従事者の減少を見据え、後継者の確保・育成を図り、入作を希望する認定農業者や認定新規就農者の受入れを促進する。
基盤整備への取組方針 農業の生産効率の向上や農地集積・集約化を図るため、大浦地区において、農地の大区画化・汎用化等の基盤整備の検討を行う。
新規・特産化作物の導入方針 米、麦・飼料作物等の土地利用型作物以外に、木田地区・大浦地区を中心に高収益作物の生産に取り組む。
鳥獣被害防止対策の取組方針 —